

■第6回検討会議における議論のポイント

①「3年間」のアプローチ期間の根拠について

- ・無償譲渡を受けて、維持管理費を出しつつ、担い手を育てていくというストーリーにおいて係る経費については、3年の根拠も含めて明確にすべきではないか。中活計画は終わってもビジョンを根拠に3年かけて実行していくとか、そういう根拠が求められるのではないか。
- ・ビジョンとしてタイムフローが必要。再々開発の青写真を作るための体制、計画を作成するために3年かかる。その間、ソフト事業をやりながら人材育成をして、活性化のためのタマも打っていく。また、今の設備に手を入れずに運営するにも限度があり、それを超えると大規模改修が必要になる。それが3年という根拠である。
- ・その3年は滝川市ががんばってここにお金をつぎ込むという意思表示になり、そうすることが検討会議としては、あの場の再生の中ではより良いやり方であると考えた。
- ・既存テナントを考えても3年間くらいは権利調整が必要になるという話題もあった。そういう面からも必要な期間になると示すべきだろう。
- ・3年の間でマーケットリサーチをして、3年後にプロポーザルを実施するという可能性もある。とにかく、3年で何をすべきかをしっかり描いていく必要がある。

②運営組織の立ち上げについて

- ・運営組織の図式が載せられているが、民間が加わってくれる見込みについては甘い見通しではないか。提言する側として書くのであれば、それなりの裏付けは必要になる。
- ・人材育成のためのステージ作りを進める、プログラムを初期的に考えるということは、かなりパブリックマインドのあるところでなければできないだろう。
- ・事業目的がこのプロジェクトに合致するところが協議会に参画できる。そうするとまちづくり会社やNPO等の公益性がないと参画できないだろう。プレイヤーとしては、民間は非常に重要な存在なのだが、スタート時点から参画するのではなく、土壌を作ってから参加してもらった方が良い。
- ・盛んに人材育成という言葉が躍るが、提言の中では具体的にどういう人材なのかを書いていきたい。チャレンジショップの経営者なのか、中心市街地のまちづくりを考えるためのブレインになる人材なのか、それとももっと大きな事象を束ねていくようなマネージャーを育てて、まちづくり会社を盤石な状況に持っていくことを狙っているのか。単純に小さな、限定的な人材を指しているわけではないと理解している。

③事業展開の仕組について

- ・事業のタマ、つまり様々な補助メニューも含めて、どの事業にどのお金を当て込むのか、単費でやっていくのか、民間にお願いしていくのかが見えていく必要がある。
- ・富良野マルシェを見てきたがあの内容は滝川でもできる。向こうはちゃんと事業コンペをやっていて、富良野マルシェができたことで相乗効果が生まれている。そのつなぎの部分公開の事業コンペでやって、マルシェの隣の開発を任せている。要はタマが連続している。そういうことを描かないとダメなのではないだろうか。
- ・この段階ではきっちりと書くことは難しいのだろうが、そういう意識でプログラム作りを進めるということ提言でわかるようにしておいた方が良いのではないか。

- ・この「再々開発」という言葉から連想されるものが、本来意図するものと異なっているのではないのか。単体で地域を賄っていくのではなく、総体で地域の活性化を進めるのだということを、文言なり、ダイアグラムで見せていく必要がある。それがないと、またでかいビルを作るのではないかと勘違いされるのではないだろうか。
- ・民間に対しては投資に対するキャッシュフローまで見せていかないと検討の余地はないだろう。一方ではここではこのビジョンでは現時点でそこまで書いていくことは難しい。資金調達の手法は色々があるが、そういうものを活用していくべきということだろう。市の方々も国の補助金を利用できないか検討する必要がある。
- ・国の事業でいえば、暮らしにぎわい、まちづくり交付金、計算の戦略補助等がある。一方では何をすべきかが見えていないから、どういう事業を使うのかという組み立ては現時点ではできてない。単費ではできないので、民間の資金を含めた可能性を検討する必要があるということは触れることはできるだろう。

④無償譲渡に係る要件について

- ・検討会議として先に展開できるように譲渡の条件はこれしかない、これを解決しないことには先に展開できないというスタンスだろう。
- ・あえてこの条件4、5は検討会議としての条件とすべきではない。
- ・委員会としては1～3を条件として整理すべきだということ整理したい。
- ・こういうビジョンが作られることが、一部の疑念を解くきっかけになってほしいと思う。そこだけを攻め込んでいくことには何も生産性はないということで提言をしていくべきであろうし、それが提言の役割だろう。後ろ向きの議論をすることの危険性を明確に発してもよいのではないか。